（第３種郵便物認可）　プレス空知　２０２３年(令和５年)５月３１日(水曜日)

学校法人国学院大学の公式ホームページでは、傘下各校の行事や取り組み等を公開しています。
左記の二次元コードから是非ご覧ください。

学報 News CATY（ニュース キャティ）

2023年5月　第151号

発行／国学院大学
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
広報委員長　佐野　博之

世代交代を本学発展の契機に

国学院大学北海道短期大学部　学長　平野泰樹

国学院大学百周年記念として設立された本学短期大学部も昨年40周年を迎え、新たに45周年に向けて歩み始めました。その第一歩である令和5年度は、関係諸氏のお蔭をもって、定員を上回る226名の新入生を迎えることができました。本紙紙面をお借りして御礼申し上げます。

開学42年目の本学では、この5年間で定年による教員の退職者が相次ぎ10名の新任の先生を迎え入れました。さらに10年間でみれば16名となり、全体の7割を超える教員が入れ替わっています。また、職員も世代交代が進み、教職員の平均年齢は大きく若返りました。

このことは、二つのことを意味しています。一つは、本学の存続に心血を注いだ経験者たちの貴重な経験を継承していけるかということ、そしてもう一つは、急速に進んだ世代交代により学科が新たな生成期にあるということ意味しています。

「新しい酒は新しい革袋に盛れ」という言葉がありますが、学科も大学もたゆみなく時代を先取りするために新たな生成を果たしていかなければなりません。しかし、同時に、開学以来、先人たちが積み重ねてきた学科の改編と教学体制強化への取組みは、継承していかなければなりません。新生と継承、この二つのことが本学の未来を切り開くものとなります。

二期目を迎えた学長としての使命は、この世代交代を着実に進めることにあります。教職員一同、心を合わせて、本学の新しい時代をつくっていきたいと考えています。

全国から226名入学

4月10日に入学式　新入生が決意新た

入学式で式辞を述べる平野学長

4月10日、令和5年度第42回入学式を挙行し、国文学科78名、総合教養学科111名、幼児・児童教育学科37名（幼児保育コース23名・児童教育コース14名）、合わせて226名が入学しました。

平野泰樹学長は式辞の中で、「建学の精神のもとで学ぶこれからの2年間は、皆さんにとって大切な時期となる」と述べ、勉学や地域活動への参加を呼びかけました。誓詞は新入生を代表し、幼児・児童教育学科の黒澤咲来さん（滝川西高出身）が、「日々勉学に精進し、たくさんの知識や経験を身につけ、多くの出会いを経て、子どもたち一人ひとりの心に寄り添える人、保護者に安心・信頼してもらえるような保育者を目指したい」と大学生活への抱負と決意を述べました。

本年度の入学生は、北海道内出身者は79名で35%（滝川市内高校出身者21名を含む中空知管内では33名）、北海道外出身者（最遠地は沖縄県）は147名で65%でした。

手作りカレーで新入生歓迎

ウェルカムパーティーでの新入生たち

式典終了後、学生が生活しているアパート等の大家さんの組織である家主連絡協議会の皆さんが、学生ホールで新入生と保護者の皆さんを祝福、歓迎するウェルカムパーティーを開催し、手づくりのカレーが振る舞われました。家主連絡協議会の皆さんは、「滝川のおやじ・おふくろ」として、慣れない土地で生活する学生が安心して学生生活が送れるよう、サポートしてくださっています。

新任教員紹介

地域のみなさんよろしくお願いします

幼児・児童教育学科准教授
山川俊巳

今年度より、児童教育コースの教員として勤務しております、山川俊巳と申します。

これまで、小・中学校、行政機関で勤め、初任段階層教員の研修等を担当しておりました。本学では、教員免許状取得を目指す学生を対象とした科目を担当します。

近年、子ども等のニーズの多様化や教員の勤務実態など、学校は多くの課題を抱えています。一方、私がこれまでに出会った多くの若年層教員は、目の前の子どもに真摯に向き合い、やりがいをもって勤務しています。

本学では、そのような活力溢れる教員の養成に向け、実際の体験や実践を通し、子どもが主語の教育観を磨き、将来を見据えた教職の土台を構築するために学生と共に学び、支援に努めます。

学びは、考え、話し合い、協働することで、より深まり、洗練し、機能性が高まります。本学での学びを通じ、学生の皆さんの自己実現の一助となるよう、いただいたご縁に感謝し、鋭意努力してまいります。

総合教養学科助教
板垣由美子

今年度、総合教養学科助教として採用されました板垣由美子です。

私の専門は日本経済史で、近年は大正期から昭和初期の北海道に強い関心を持っています。

経済史は経済学と歴史学の2つの学問分野に関連する学問です。そのため、経済学の影響を強く受けている研究もあれば、歴史学の影響を強く受けている研究もあります。

また経済学と近接する経営学の影響を受けている研究もあります。そして、このように多様な研究があることが経済史という学問に奥行きを与えています。

本学もまた教員、プログラムなど様々な面において多様性があります。ですから、本学での学びはみなさんの「奥行き」をだすのに一役かってくれるでしょう。ぜひ日々を大切に、少しでも多くのことを学んでいってください。

私もまたみなさんの力になれるよう努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新入生が未来へ力強く抱負

興味に向き合って学ぶ

私は国文学を学びたくてこの学校へやってきました。社会学や実学を学ぶ学生が多い中、私は何故こんなにも日本という国の文化に魅せられてしまうのでしょうか。それは紛れもなく私達の文化が美しいからです。文学も歴史もその在り方も極めて異端で、繊細で愛くるしい。その魅力を純粋に愛せる場所がこの学科だと思います。

私はここで自分の興味にとことん向き合いたいと思っています。例をあげますと現時点では、常民文化の食事に関する儀礼を研究したいと思います。

しかし、ただ一つの分野の資料から読み解いた文化だけでは、文化を語るに足りないでしょう。しばしば学ぶということは専攻によって分断されがちですが、学ぶことにおいて最も大切なのは多角的な視点から物事を分析し、最後は自分で感じることではないでしょうか？勿論想像でしか補えない部分はあります。けれども、歴史学や言語学、宗教的側面を無視して新たな気づきは得られない。いうなれば、〝懐の深い思考〟が求められます。私達が出会う疑問や興味、理不尽にはすべて理由が存在します。それを探し求めるのが〝学ぶ〟ということでしょう。

私は、この場所で身近な経験の中に潜んでいる自身の問いとじっと向き合ってみたいと思うのです。停滞の先に、きっと彼らは応えてくれます。もう、わくわくが止まりません。（国文学科1年／齋藤祐希）

夢の実現に向けまい進

私が、国学院大学北海道短期大学部在学の2年間で身に付けたいことは、「個人で稼ぐ力」です。個人で稼ぐ力とは、「個人でサービスを提供できるほどに力があって、かつ一人で物事を進めることができ、いざという時には周りの人を大切にしながら仕事ができること」と考えており、将来は個人で英語と子どもに関わる仕事をしていきたいと思っています。

そのためには、在学中に英語力の向上と子どもに対する関わり方を学んでいく必要があり、具体的には、多くの英語の講義を履修し、英語への理解を深め、高いレベルの英語力を身に付けることが大切であると考えます。

次に、子どもへの関わり方については、教職課程の履修を通して学んだことを、授業外の活動で実際に子どもと接しながら実践していく必要があると考えました。具体的には、ボランティア活動への参加を通して、より一層子どもと触れ合える機会を自ら作っていきたいと思います。

私は入学前の説明会に参加した際、「英語と子どもと本を組み合わせた活動」ができたら面白いのではないかと、舛井先生方と話しました。それを実行するためには「個人で稼ぐ力」、言い換えるなら、人が対価を払ってもいいと思えるようなサービスの提供が不可欠だと思っています。

在学期間中にTOEICでのハイスコア、教員免許状の取得、図書館司書の資格取得などを目指すとともに、実行力、人的ネットワークの構築、積極性を身に着け、目標や夢の実現に迫っていきたいと考えます。（総合教養学科1年／大平美咲）

保育士をめざして入学

私は高校生の頃から保育士を目指していましたが、卒業後は一度社会人として就職しました。しかしながら就職してからも保育士を目指したい気持ちが変わらず、資格取得の可能性を調べていたところ本学の社会人入学の枠があることを知り、入学志望することになりました。

私の所属する幼児保育コースは、フレッシュマンキャンプとして札幌青少年山の家で宿泊研修があり、幼児保育コースの2年間のスケジュールの確認や保育実習、幼稚園教育実習についての概要など、1泊2日で沢山のことを学びました。この研修の交流により、クラスの皆さんや先生方との距離が近くなったように感じました。

私は将来の就職のため、保育士や幼稚園教諭免許の他にレクリエーション・インストラクター課程を学んでいます。田中一徳教授のレクリエーション理論の授業では、頭を使うボードゲームをしたり、白樺樹液の採取など、自分にとって新しい経験を楽しみながら学べています。この授業は先生や皆とのコミュニケーションを取りながら学べる為、私は毎回の授業を楽しみにしています。

私が将来目指す保育者像は、障がいを持っている方の背中をそっと押せる、支えられる保育者です。身内に障がい者がいるという事もあり、障がいに関して以前から関心がありました。将来は、障がいを持っている方だけではなく、家族の方々や周囲の方の支援ができるような保育者になりたいと思っています。（幼児・児童教育コース学科　幼児保育コース1年／新美奏羅）

目標は小学校の教員

私は小学校教員になることを目標として、この国学院短大を受験し、入学することができました。この大学の児童教育コースを選んだのは、最短二年間で現場に出ることができるという点に魅力を感じたからです。

今、小学校教員はなり手が不足しているのが現状です。私はこの大学生の段階から、必要な教養などをしっかり自分のものにし、思慮深く広い視野を持ちながら、この現状を払拭していく一端を担えるような教員を目指したいと思っています。

この先、子どもたちの手本になれるように、自分の行動一つ一つに責任と誇りを持ち、小さなことでも徳を積み重ね、目標としている、「すべての子どもたちに寄り添える教員」になれるように努力します。

当たり前ではありますが、私一人では短大生活を送ることはできません。先生方や学生支援課の皆さん。同級生や先輩方。そして家族の支えがあってこその大学生活です。

さらに、年齢的には成人を迎えており、高校生の頃よりも自分の行動に責任感が必要になると感じています。自分の立場などをしっかりわきまえ、周囲の支えを力に変え、自分次第で簡単に変わるこの二年間を有意義にできるよう、目標に向けて邁進していきたいです。（幼児・児童教育コース学科　児童教育コース1年／永井梁太郎）

明治神宮など巡るツアーを実施

オープンカレッジ

巡見ツアーで明治神宮を正式参拝した参加者

開学40周年記念事業の一環として、3月22日～24日にオープンカレッジ「神社・神道を知る講座」（担当講師／森悟朗准教授）の特別企画「鎌倉・江島神社と明治神宮、国学院大学博物館の巡見ツアー」を実施しました。

「神社・神道を知る講座」は平成26年の開講以来、多くの皆様に受講いただいている講座で、神社や神道の基礎知識を毎年内容を変えて、「日本神話の神々と神社」、「神社のお祭」等について学んでいます。

22日は学校法人国学院大学佐柳正三理事長を表敬訪問、国学院大学博物館では研究開発推進機構の大東敬明教授に校史や神道について解説をいただきながら見学をしました。

23日は、鶴岡八幡宮と江島神社を参拝。森准教授の研究対象である江島神社を正式参拝し、森准教授の解説とともに江の島岩屋、弁財天が展示されている奉安殿等を見学し、弁財天仲見世通りを散策しました。また今回の参拝に合わせ、『江嶋縁起絵巻』を特別に展示いただき、神職の狩野見英聰さんに絵巻や歴史等について解説をいただきました。

24日は本学国文学科を卒業し国学院大学に編入学をした、明治神宮総務部広報調査課の佐野裕一郎さんが斎主を務めて、明治神宮を正式参拝。また、明治神宮国際神道文化研究所研究員の中野裕三先生（国学院大学卒、神道学博士）に明治神宮の歴史等について解説をいただきながら境内を見学しました。

令和5年度のオープンカレッジは、5月30日から本講座を含む全24講座（文学、史学、書道、文芸創作等）が随時開講し、募集中の講座もございます。詳細はホームページまたは、電話でお問合せください。

花火大会や軽音ライブ、6月に「ありす祭」

今年度は「地域に開かれたありす祭」をスローガンとし、学生にはもちろんのこと、地域の皆さんにも楽しんでもらえるような企画を考えております。学生による模擬店は、焼きそば、白玉ぜんざい等を出店し、キッチンカーもあります。毎年恒例の花火大会は特別な演出を予定しており、他にもビンゴ大会・フォトコンテスト・演劇部の公演・軽音ライブ等も行います。皆さんのお越しをお待ちしております！

学生会副会長／小池巧紘（国文学科２年）

▽　▽

◆６月17日（土）／模擬店・キッチンカー10時～17時、演劇部公演12時～、軽音ライブ13時20分～、ビンゴ大会14時30分～、花火大会20時～

◆18日（日）／模擬店10時～16時、キッチンカー10時～15時、ふわふわスライダー11時～16時、幼児保育コース「あそびの縁日」10時30分～12時・13時～14時、子育てサロンありす一般開放10時～15時、滝川市立図書館古本もってけ祭10時30分～14時